大商学園高等学校
校長　山上　浩一

令和７年度　大商学園高等学校　学校評価報告書

１　めざす学校像

「人格教育」を主眼とし、有能で品格のある人材の育成
①学力を向上させ、生徒の進路希望を実現する学校。
②基本的な生活習慣の確立を図る学校。
③学校行事、部活動を充実させ、自律した生徒を育成する学校。

２　中期的目標

１　学力向上と授業改善に取り組む。
(1)生徒の学力の向上をめざし、教員の授業力向上に取り組む。
(2)教員同士の公開授業・研究授業に取り組む。
(3)生徒の学力に応じた授業改善に取り組む。
(4)授業改善のため、生徒による授業アンケートを実施する。
２　生徒の規範意識を高め、教職員全体で頭髪・服装・遅刻・マナー等の生活指導に取り組む。
(1)遅刻指導を徹底し、生活習慣の確立に取り組む。
(2)登下校の生徒のマナーを高める。
(3)日常の言葉遣いを徹底し、正しい言葉遣いの意識を高める。
３　生徒の進路意識を高め、進路希望を実現する。
(1)放課後や長期休業中の進学講習を充実させる。
(2)３年間を見通した「総合的な探究の時間」で、生徒の進路意識を高める。
(3)自習室の効果的な利用を図る。
(4)簿記や英検などの資格取得の取り組みを充実させる。
４　生徒の自主活動を充実させ、自主・自律の精神を養う。
(1)部活動の加入率を増やし、部活動を活性化させる。
(2)体育祭・文化祭などの学校行事を充実させ、生徒の主体的な活動を支援する。
(3)国際交流を活発に行い、国際感覚を身に付ける。

３　学校教育自己診断の結果と分析・学校評価委員会等からの意見

学校教育自己診断の結果と分析 （生徒による授業アンケートは令和７年９月実施） （学校教育自己診断は令和８年１月実施）	学校評価委員会等からの意見 令和８年３月 14 日実施
【学校生活の満足度】 「大商学園での高校生活に満足している」の肯定感は、80%あり、昨年とほぼ同じ。また、「大商学園の先生は分かりやすい授業を心がけている」の肯定感も、85%あり、昨年とほぼ同じである。本校の教育活動が一定の成果を上げてきている。今後、生徒の満足度を 85%以上に引き上げたい。 【学習活動】 「宿題や課題などは必ずやるようにしている」の肯定感は、95%あり、昨年に比べて微増である。今後も生徒の家庭での学習時間を増やす取り組み強化し、95%を維持した	○登校中の生徒の表情が大変良く、また、マナーもよくなっており、地域の方からの評判も良くなっている。 ○学校教育自己診断の生徒のアンケート結果について、学校生活全般に対する肯定感がおおむね良好であるのは、学校が良くなってきていることのあらわれである。 ○授業に対する生徒の肯定感が 85%で安定しているのは、先生方の努力の賜物である。 ○「宿題や課題などは必ずやるようにしている」の肯定感が 95%で安定しているのは、生徒の層の変化によるところが大きいのでは。

い。 【進路指導】 「進路について、先生は適切なアドバイスを与えてくれる」の肯定感は 87%と昨年とほぼ同じである。今後とも、より丁寧なアドバイスを全教職員で行い、肯定感 85%以上を維持したい。 【学校行事】 「体育祭は満足できるものであった」の肯定感 87%で微減、「文化祭は満足できるものであった」の肯定感は 94%で昨年とほぼ同じである。学校行事は、数年前と比べて、より充実してきている様子が伺われる。 【部活動】 「部活動に積極的に参加している」の肯定感は 69%で、昨年度とほぼ同じである。クラブ勧誘など様々な取り組みを行い、70%以上をめざしたい。	○「体育祭の満足度」が 87%で微減、「文化祭の満足度」が 91%と微増であるので、生徒が学校行事に前向きに取り組んでいるあらわれではないか。 ○四年制大学への合格実績が上昇しているのは、地道な先生方の取り組みの賜物である。国公立、早稲田、関西八私大（関関同立、産近甲龍）の合格者数は延べで 131 名である。 ○旧第 1 学校の公立・私立合わせて 23 の高校の中で、大商学園は遅刻をする生徒が一番少ない高校になっている。生徒指導の取り組みの大きな成果である。

4　本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み状況	評価指標	達成状況及び 今後の改善方策
1 学力向上と授業改善に取り組む	(1)教員の授業力向上	①予備校が実施している授業研修会に各教科の教員を参加させる ②11 月に教員同士の公開授業に取り組み、かつ、各教科ごとの研究授業を実施する。お互いの授業を参観することによって、教員の授業力を向上させる。 ③生徒による授業アンケートを実施し、教員の授業改善の参考資料とする。	①授業研修会に参加した教員の数。 ②何名の教員が他の教員の授業を参観したか、また、研究授業を参観した教員の数。 ③生徒の授業アンケートで、分かりやすい授業の肯定率。	① 河合塾、駿台予備校の高校教員を対象にした授業研修会に各教科ごとに 1 名、合計 7 名の教員が参加し、その内容を教科会議で報告した。 ② 非常勤講師を含め 116 名の教員が他の教員の授業を参観して、その感想を教頭に提出した。また、各教科で 1 名、合計 7 名の教員が研究授業を行い、80 名の教員が研究授業を参観した。教科会議で研究授業について意見交

				換を行った。 ③ 生徒の授業アンケートで、授業が分かりやすいの肯定感は 85%あり、昨年とほぼ同じである。 ※全体として、本年度の目標は概ね、達成されたと思われる。 ※今後の改善方策 ①予備校での授業研修に参加した教員に職員会議で報告してもらい、全教職員で共有する。 ②研究授業での各教科で議論してもらった内容を職員会議で報告をし、学校全体のものとして共有する。 ③授業アンケートで肯定感の低い教員に対して、管理職が授業を見て指導する。
2 生徒の規範意識を高め、教職	(1)遅刻指導の徹底。 (2)登下校中の生徒のマナーを高める。	①毎朝と下校時に、服部天神駅周辺に教員が立ち、登下校指導を行う。 ②毎朝、校門前等に教員が立ち挨拶運動を行う。 ③遅刻した生徒に対して担任の個別指導を徹底して行う。	① 遅刻者数を北摂ブロックの公立・私立合わせて 23 高校中、最も少ない学校をめざす。 ② 学校教育自己診断で、「生徒はよく挨拶をする」の肯定感を 95%以上で維持する。	① 令和 7 年度も、北摂ブロックの公立・私立合わせて 23 高校中、生徒 100 名あたり遅刻者数（107 名）において、13 年連続で最も少ない学校となった。 ②学校教育自己診断で、「生徒は挨拶をよくする」の肯定感は 96%あった。昨年とほぼ同じである。 ※本年度の目標はほ

員全体で頭髪・服装・遅刻・マナー等の生活指導に取り組む				ぼ達成されたと思われる。 ※今後の改善方策 ①遅刻の少ない生徒を表彰し、全校生徒の意識改革を図る。 ②登校・下校中のマナーだけではなく、電車中でのマナーを高めるべく、教員が同乗して指導を行うことも検討する。
3 生徒の進路意識を高め、進路	(1)長期休業中・放課後の進学講習を充実させる。 (2)3年間を見通した「総合的な探究の時間」を充実させ、生徒の進路意識を高める。 (3)自習室の効果的な利用に取り組む。	①進学講習について、各教科まかせにするのではなく、進路指導部として責任を持った進学講習にしていく。長期休業中の講習の講座を目標別・進路別に開講する。 ② 「総合的な探究の時間」を検討するプロジェクトチームを発足させて内容を吟味していく。 ③大学見学ツアーを実施し、生徒の進路意識を高める。 ④生徒が自習しやすいように、各教科の教員が随時、自習室にいるようにする。	①進学講習の担当者にシラバスを提出させ、進路指導部が進学講習の中身を把握する。 ②学校教育自己診断で、「生徒の進路実現に向けて高い目標を持った授業が行われている」の肯定感を80%以上にする。 ③大学見学ツアーを夏休み前に実施し、生徒の意識改革に取り組む。	①担当者全員がシラバスを提出して進学講習を行った。夏季講習は進路別・目標別の講座を開講した。 ②学校教育自己診断で、「生徒の進路実現に向けて高い目標を持った授業が行われている」の肯定感は87%と昨年とほぼ同じである。 ③大学見学ツアーは近大、京産、龍谷、同

希望を実現する			④学校教育自己診断で、「自習室は利用しやすい環境である」の肯定感を 80%以上にする。	志社など12大学で実施。 ④学校教育自己診断で、「自習室は利用しやすい環境である」の肯定感は 81%で、昨年とほぼ同じである。 ※本年度の目標は達成されたといえる。 ※今後の改善方策 ①進学講習のシラバスの中味のさらなる吟味が必要である。 ②大学合格実績は、今後も、国公立大学を増やしたい。 ③ 今年も、自習室に大学生(大阪大学生)の学習チューターを常駐させて、生徒の質問に答えさせた。
4 生徒の自主活動を充実させ、自主・自律	(1)部活動を充実すべく、部活動の加入率を増やす。 (2)学校行事の活性化を図る。 (3)国際交流を活発に行う。	①新入生歓迎会やクラブ紹介を充実させ、部活動の加入率を高める。 ②各部の取り組みを生徒会新聞等で紹介し、生徒に部活動への興味を持たせる。 ③11 月に千里中央のコラボ会館を借りて、「大商学園高校展」を開催し、文化系部活動の発表の場とする。 ④ 体育祭の応援合戦を新たな形の応援合戦にすべく、他の学校の応援合戦の様子を、本校の生徒に紹介し、団ごとの競争意識を高める。 ⑤文化祭に賞を取り入れ、クラス間同士で競争させることによって、質的向上をめざす。	①部活動の加入率を 70%以上にする。 ② 学校教育自己診断で、「体育祭は満足した」「文化祭は満足した」の肯定感をともに 85 % 以上にする。 ③マゼノド高校以外の海外の高校生とも交流を行う。	① 部活動の加入率は 69 % であった。昨年とほぼ同じである。目標には達しなかった。しかし、女子サッカー部・女子テニス部・ダンス部が全国大会に出場した。 ② 学校教育自己診断で、「体育祭は満足した」の肯定感は 87 % あった。また、「文化祭は満足した」の肯定感は 94%あった。体育祭、文化祭ともに概ね

の精神を養う		⑥8月に、本校生がオーストラリアのマゼノド高校に行って、マゼノド高校生と交流する。		目標に達した。 ③ 海外の高校生との交流は、韓国からの修学旅行生との交流を考えていたが、実現せず、マゼノド高校以外との交流は出来なかった。 ④9 月にオーストラリアのマゼノド高校生が 20 人来校。20 人のホームスティ先を本校生宅にお願いし、2 週間にわたって文化祭などを含めて交流した。 ※概ね、本年度の目標は達成されたと思われる。 ※今後の改善方策 ①運動系クラブの公式戦の日程等も生徒会新聞に載せ、生徒の意識を高める。 ②他校の文化祭の例を生徒に紹介し、文化祭への意識付けを高める。 ③大商学園高校展に多くの生徒に見に来て貰い、文化系部活動を活性化する。

※令和 7 年度大商学園高校　学校評価委員の氏名

亀田章（地域の自治会関係者）、渡邉浩（地域の自治会関係者）、新戸登代子（元 PTA 関係者）

溝口章仁（元 PTA 関係者）、高橋剛（地域の自治会関係者）、玉置清香（令和 7 年度 PTA 会長）